

授業特別協力者(ゲストスピーカー)報告書

テーマ : エージェントベースモデリングの紹介
授業特別協力者名 : 荻林 成章 氏
実施日時 : 2024 年 7 月 16 日(火) 3 時限
担当教員名 : 竹田 信夫
授業科目名 : ICT 概論
履修者数 : 160 名

実施結果

ICT 概論では ICT を社会や企業の活動で使用する際に必要となる基礎的な理論について学修を行い、その一環としてモデル化について学ぶ。

荻林先生は、エージェントベースモデリングの研究者として極めて評価が高い方でありも今回も、エージェントベースモデリングの考え方とその応用による社会や経済の理解についてご講義いただいた。本年もプロジェクターへの投影がうまくいかないという問題が発生したが、商学部 SE によって解決された。

授業においては、現在の社会科学の問題点の指摘があり、次いでシミュレーションやモデリングについての歴史や考え方についてご説明があった。その後 ABM の考え方と一般に使われている数式モデルの違いが説明され、ABM が社会的な仮想実験が可能なモデリングであること、実験による知の集積の必要性が説明された。

その後、経済のマクロ的なモデル、イジメのモデル、感染モデルについての説明とそれによって得られた知見について説明があり、ABM が社会的な仮想実験を行うことによってそれまでのモデルによって説明が困難であったり、間違った理解が行われていた事象について ABM によって新しい知見と理解が得られることを熱弁された。

講義内容は学生の興味関心と大いに重なったようで、授業の出席を取った際に出された意見感想においては、「社会や経済に関する学問が客観的な知見の蓄積ではなく単なる学説の集まりという解釈は今まで聞いたことがなく新鮮だった。」とか「ABM を用いて社会のモデル構造を明らかにするというプロセスを取ることで、因果メカニズムを計算的実験によって明らかにすることが可能になるという点から、この方法によってもっと様々な社会的な事象をもシミュレーション出来そうで興味深いと思った。」といった声がだされ、また通例一、二行程度の感想が多いところで、長文の感想が目立ったこともこの授業が学生の学修に大きな影響を与えたことをうかがわせた。

残念ながら最初にあったプロジェクターの問題によって時間が足りなくなり質疑応答の時間が取れず、それを残念がる学生も多かった。

この点は大いに反省したい。